

第13回ITSシンポジウム 企画セッション2-1
若手研究者から見たITS研究開発の
魅力と課題, そして**これから**

モデレーター	清水 哲夫(首都大学東京)
パネリスト	小木津 武樹(東京理科大学)
	吉野 加容子((株)脳の学校)
	日下部 貴彦(東京工業大学)

なぜこの企画セッションを考えたか？

- ITSの研究開発の世界に舞い降りた“救世主”＝ビッグデータ，IoT，自動運転，パーソナルモビリティのおかげで，しばらく**安泰**か？
- 分野を超えた研究交流が依然として不十分
- 社会を変革するような**大規模プロジェクト**への参加機会の喪失
- ITSが徐々に“空気”のような存在へ
- ITSが実現する社会の**ビジョン**が依然として曖昧
- そろそろ“司令塔”の交代を意識すべき時
- 若手から**“大仕掛け”のITS構想**を示すことを考えてみては？

進行

1. セッション設置の背景(3分)
2. 話題提供者による研究プレゼンテーション(32分)
3. モデレーターからの**論点コメント**と**相互ディスカッション**(20分)
4. トピック1:ITSの研究開発にどんな**夢**も持っているか？ 夢を阻む**障害**は何か？(10分)
5. トピック2:若手研究者が**産業界に期待したいこと**は何か？(10分)
6. フロアーとの討議(10分)
7. まとめ(5分)

小木津氏へのコメント

- ある種の「夢」はある
- 「ドライバレスへの移行はできるだけ一気に対応」, 「ドライバレス車両優先通行空間」は確かに一つの考え方かも
- 社会はやはり事故は許容できないだろう
- 既存車両を安価にドライバレス対応に転換できるか？
- 定期的に非ドライバレスとすることも必要か？
 - 緊急時のマニュアル対応のため
 - (ドライバレス対応していない)外国での運転のため

吉野氏へのコメント

- 派生需要と本源需要のそれぞれに対応する車社会の分化というユニークな視点
- 「ヒトを劣化させない車社会の実現」は、言われればそう思うが、意外と新鮮な視点
- 空間認識能力，動体視力の訓練としてクルマの運転は適していると勝手に思っていたが，非自動運転が脳やヒトの強化につながる側面はあるか？
- 脳科学は公共交通をどう見るか？ 自動車と違うか？

日下部氏へのコメント

- 「旧来的データに基づく分析技術の発想の限界」を打破する次世代研究者として期待？
- センシングは短期的問題解決には優れていると考えられるが、遠い将来のビジョン提示には力を発揮できるか？ その方法は？
- 外出の減少←観光・交流による地域振興の立場としては何とかしてもらいたいが...
- 自動車の保有に対するオプション価値は強力？
- シェアリング：使いたいときは同じ？
- あらゆる都市・地域構造に対応できるモビリティとは？

進行

1. セッション設置の背景(3分)
2. 話題提供者による研究プレゼンテーション(32分)
3. モデレーターからの論点コメントと相互ディスカッション(20分)
4. トピック1:ITSの研究開発にどんな夢も持っているか？ 夢を阻む障害は何か？(10分)
5. トピック2:若手研究者が産業界に期待したいことは何か？(10分)
6. フロアーとの討議(10分)
7. まとめ(5分)

若手研究者への緊急アンケート調査(N=14)

1. 自身の持つ、「将来の交通の世界」のイメージについて、(どんなに奇想天外でもよいので)書いていただけますか？
2. もし、設問1のような夢に向けてご研究をなさっているようでしたら、どのような研究ですか？ 差し支えない範囲で記述ください。「このような研究をやってみたいと思う」のような構想でも結構です。
3. 夢を実現させようと思っても、現実には様々な障害があるのも世の常だと思います。研究遂行にあたって障害と感じていることがあれば、ぜひお書きください。

設問1: 将来の交通の世界

- **自動運転** + α
- 新たな公共交通の登場
- テレコミュティングの進展を契機とした移動の大幅な変化

設問2:夢に向けた研究

- 自動運転・操作補助に必要な要素技術
- 高齢者モビリティ
- 個人活動の障害を少なくする交通

設問3: 研究の障害

- 研究者**個人**で研究データ・実験環境整備は困難
- (自動運転系)研究**場所**の確保
- 若手研究者の**雇用環境・研究環境**(時間・資金)が悪い
- 業績を挙げることに精一杯
- 企業と大学の**共同研究**が少ない(特に民→学の資金提供が少ない)
- **国家的プロジェクト**の期間と予算配分
- むしろシニアの方がチャレンジングで楽しそうに研究している

進行

1. セッション設置の背景(3分)
2. 話題提供者による研究プレゼンテーション(32分)
3. モデレーターからの論点コメントと相互ディスカッション(20分)
4. トピック1:ITSの研究開発にどんな夢も持っているか？ 夢を阻む障害は何か？(10分)
5. トピック2:若手研究者が**産業界に期待したいこと**は何か？(10分)
6. フロアーとの討議(10分)
7. まとめ(5分)

議論(キーワード)

- マルチモーダルな視点
- ヒトとシステムの関係性、人目線の重要性
- 木と森
- シニアの役割？ 奇想天外なアイデア、夢
- 実社会環境での研究のあっせん
- 今後も継続的に
- チャイルドモビリティ、子供の移動制約、遊び空間の制約、就学期前の大事さ
- ITS論文一本の「価値」は実は高い、人材育成への貢献の評価
- 自動運転:目的か手段か？ 認知症対応